

https://farid.ps/articles/israels_descent_into_infamy/ja.html

イスラエルの悪名への転落：自慢する疎外者の破滅への道

わずか21か月で—2023年10月から2025年7月まで—イスラエルは、道徳的原則に導かれた民主国家であるという幻想をすべて打ち碎いた。イスラエルは、法を軽蔑し、平和に敵対し、良心に無関心な暴力的な無法国家であることを明らかにした。多くの人々が今、イスラエルを中東の狂犬病にかかった犬に例える—核武装した侵略者が、レバノン、シリア、イラク、イランを無差別に攻撃し、今、ガザを比喩的に噛み殺している、歯をむき出し、目を白くして、世界が恐怖の目で見守る中。

これは比喩の過剰ではない—耐え難い悲しみと正当な怒りから生まれた言葉だ。イスラエルのガザでのキャンペーンは戦争ではない。それは占領された民間人に対する意図的かつ体系的な攻撃であり、エスカレートするジェノサイドであり、公然と放送され、嘲笑的に正当化されている。

ガザの恐怖：段階ごとのジェノサイド

2023年10月7日のハマスの攻撃—1,139人のイスラエル人を殺し、250人を人質に取った—後、イスラエルは正義を求めるのではなく、殲滅のキャンペーンを開始した。58,000人以上のパレスチナ人が殺され、そのうち少なくとも16,756人が子供だ。ほぼ200万人が避難させられた。ガザのインフラー学校、病院、ベーカリー、水道網一は破壊された。

2025年3月、イスラエルの閣僚イスラエル・カツとベザレル・スマトリッチはガザへの完全封鎖を再課した、国際司法裁判所の暫定措置を公然と無視し、イスラエルに「ジェノサイドの行為を防止する」ことを明確に命じた。この封鎖は、食料、燃料、水、医薬品の禁止を含み、ガザを計画的な飢餓の最終段階に押し込んだ。

ガザからのすべての報告は、今、同じ耐え難い現実を伝えている：食料が全くない。国際的な資金調達キャンペーンで集めたお金があっても、買うものがない。母親たちは授乳できない。イスラエルは乳児用ミルクを禁止し、ガザでボランティアとして働く外国人医師が持参した少量のミルクさえ没収している。飢えた人々は今、路上で倒れている。子供たちはカロリー不足で死んでいる。病院は栄養失調者や死にゆく人で溢れている。ガザは今、巨大な野外ホスピスであり、病人と飢えた人々がドローンの下で死を待っている。

それでも、恐怖はそこで止まらない。

いわゆるガザ人道財団（GHF）—米国とイスラエルの共同作戦—は、食料援助を制御と死の手段に変えた。GHFの援助配布地点は、厳重に武装した殺戮地帯だ。食料を求めて必死なパレスチナたちは、木陰や水が提供されない開けた場所に集められ、動くと撃たれる。800人以上

がこれらの援助地点で殺された。さらに数千人が重傷を負った。ビデオは、群衆に発砲する狙撃手、血に染まった小麦粉の袋、Telegramやソーシャルメディアで笑い、誇らしげにする兵士たちを確認している。

占領者は自衛を主張できない

イスラエルは自らの暴力を「自衛」と表現する。これは嘘であり、法的な不条理だ。

国際法の下で、イスラエルはガザ、ヨルダン川西岸、東エルサレムの占領国だ。そのため、イスラエルが支配し、封鎖し、抑圧する人口に対して「自衛」の権利を主張することはできない。それは自衛ではない。それは抑圧だ。

対照的に、パレスチナ人には占領に対する法的かつ道徳的抵抗の権利があり、国連総会決議37/43によって確認されている。これは、すべての民族が「外国の占領と植民地支配に対して、あらゆる利用可能な手段で闘う」権利を認めている。この権利は、75年以上にわたり自己決定を否定され、フェンスの後ろに閉じ込められ、飢えさせられ、爆撃され、非人間化されてきたガザの人々にも及ぶ。

占領は暴力だ。抵抗はテロリズムではない—それは権利だ。

崩壊の心理：イスラエルは自らの墓を掘っている

人間が見ることができるものには、道徳的な反発を伴わずに耐えられる限界がある。イスラエルがその残虐行為を誇示し続け—処刑、飢餓、コーランの焼き討ち、誇らしげな兵士のビデオを投稿することで—それは深く普遍的な反応を引き起こす：嫌悪、道徳的拒絶の感情的基盤だ。

心理学的研究は、悔い改めない残酷さ、特に傲慢さと結びついた場合、道徳的乖離を引き起こすことを示している。人々は体制に反対するだけでなく、それを逆に非人間化し、怪物的な、救いようのない、呪われたものと見なすようになる。イスラエルは、自らの残酷さを誇らしげに示すことで、自身の孤立を加速している。それは、リアルタイムで見守る世界の前で自らを燃やしている。

このような道徳的崩壊を生き延びる帝国はない。イスラエルは自らの墓を掘っている—一つの投稿、一つの弾丸、一人の飢えた子供ごとに。

これはユダヤ教ではない—これは冒瀆だ

イスラエルを非難することはユダヤ人を攻撃することではない。それは彼らを守ることだ—トーラーが教えるすべてを踏みにじる国家から、ユダヤ人の名において語ると主張する国家から。

ユダヤ教は慈悲、謙虚さ、正義を命じる。ミカからイザヤ、箴言からレビ記まで、契約は明確だ：異邦人を守り、飢えた者を養い、命を大切にせよ。イスラエルがガザで行っていること—

赤ちゃんを飢えさせ、学校を爆撃し、死体を嘲笑することーはユダヤ教ではない。それは**偶像崇拜**だ。

「あなたの隣人の血のそばで無関心に立ってはならない。」 一レビ記 19:16

「一つの命を破壊する者は、全世界を破壊するに等しい。」 一サンヘドリン 4:5

「正義を水のように流れさせ、義を絶え間ない流れのようにせよ。」 一アモス 5:24

これらの戒めは、イスラエルではアマレク、種族優越主義、殲滅の言語に置き換えられた。イスラエルの閣僚はパレスチナ人を「人間の動物」と呼ぶ。兵士たちはガザを「遊び場」と呼ぶ。これは宗教ではない。これは**儀式の衣装をまとったファシズム**だ。

シオニストのほとんどはユダヤ人ですらない

現代シオニズムの原動力はユダヤ教ではない。それは**キリスト教福音主義**ー特にアメリカ合衆国においてだ。

クリスチャンズ・ユナイテッド・フォー・イスラエル (CUFI) のような団体は、ユダヤ人への愛からではなく、ユダヤ人が聖地に戻り、キリストの再来を引き起こし一改宗するか滅びるかという終末預言を果たすためにイスラエルを支援する。これは支援ではない。それは**神学的な死の罠**だ。

これらのキリスト教シオニストたちは、AIPACのような組織と手を組み、その政治的支出は TrackAIPAC.comによると**数億ドルを超えている**。この金は共謀を買う。批判者を黙らせる。ジエノサイドを煽る。

しかし、良心は買収できない。そして、真実は無期限に抑圧されることはない。

結論：世界が見守り、地球は記憶する

多くの人々が今、イスラエルを中東の狂犬病にかかった犬に例えるー反ユダヤ主義のためではなく、イスラエルが何になったか：弱者を噛み殺し、子供を殺すことを自慢し、乳児を飢えさせ、自らが掲げると主張するすべての価値を冒涜する国家。

しかし、これはユダヤ教ではない。それは**その裏切りだ**。

そして、ガザが飢餓と炎に崩れ落ち、子供たちが路上で死に、母親たちが母乳なしで新生児を埋葬する中、世界は恐怖の目で見守り一報いを受ける準備をする。どんな金額、どんな口obi活動、どんな聖書の歪曲も、ジエノサイドを劇場として扱う国家を救うことはできない。

墓は開いている。イスラエルは掘る。ガザの死者の名前はすべての石に刻まれている。そして、世界は記憶する。